

本人社員ハ差別的ニ土地ノ分配ヲ受クルコトヲ得ス之既得權ノ侵害ニシテ日米條約第一條第三項ニ違反ス

(八) 日米兩國カ無條約トナレル場合ニ歸化權アル外國人ハ不動産所有ノ權利ニ關シ何等變更セラルルコトナキニ反シ日本人ハ現ニ條約ニヨリ保障セラルル一切ノ權利ヲ失フ

(九) 均等待遇ノ原則ハ通商條約ノ基調ナリ然ルニ本法ハ國際關係ニ於テ外國人ニ與フルニ內國民又ハ最惠國民待遇ヲ以テスルヲ通則トスル事項ニ關シ日本人ニ對シ米國人竝ニ他外國人ニ比シ劣等ナル待遇ヲ與フルモノニシテ日米條約ノ精神ニ背反ス

(八) 兩國カ無條約關係トナリタル場合ニ於テモ條約ニヨリ現ニ保障セラルル通商交通ノ權利ニシテ日本人ノ正當ニ享有シタルモノノ保障ハ合衆國政府其責ニ當ルヘシ

(九) 外國人土地所有問題カ最惠國民待遇ノ事項トシテ取扱ハレタルハ合衆國ノ慣行上稀有ニ屬ス合衆國ノ締結セル條約中最惠國民待遇ノ條項ハ殆ト總テノ場合ニ於テ通商航海ノ事項ニ關ス

第三節 日米協約締結問題

第一、珍田大使ト國務長官「ブライアン」ノ協議

一、帝國政府ノ方針

前顯交渉ノ經緯ニヨリテ明カナルカ如ク米國政府ハ加州土地法問題ノ解決案トシテハ單ニ損害補償其他ノ件ヲ提唱シタルニ過キスシテ又該法カ條約違反ナリヤ否ヤノ問題ニ關シテモ何等責任アル斷案ヲ下ササリシヲ以テ帝國政府ハ同一ノ徑路ニ依リ類似ノ論辯ヲ幾度試ムルモ到底我目的ヲ達スルコト不可能ナルコト明カナルヲ認識スルニ至レリ然ルニ本問題ニ關シ我方ニ於テ試訴ヲ提起シ之ニ勝ヲ制ストスルモ其勝訴ノ結果ハ單ニ土地法中我方ニ於テ條約違反ナリト唱ヘ居ル事項ノ除去ヲ見ルニ止マリ日本人ヨリ土地所有權ヲ奪ハントスル該法ノ目的ハ依然トシテ達セラルヘク農業用土地ノ賃借權ノ如キ何時褫奪セラルルヤモ計リ難ク畢竟其原由ハ條約ノ不備ニ基クモノナレハ本問題ノ解決ニ當リテハ米國ニ於ケル日本人ノ立場ニ關シ將來ヲ確保スヘキ協約ヲ彼我ノ間ニ取結ヒ現行條約ノ缺陷ヲ補フヲ以テ極テ緊要且適切ナル措置ト認メ其方策ニ關シ反覆攻究ヲ重ネタルニ國務長官カ屢次珍田大使ニ陳ヘタル所見ニ徴スルモ此際根本問題タル歸化問題ヲ提出

スルハ徒ニ米人一般ノ反對ヲ誘起スルノミニシテ到底妥協ノ方途ヲ見出シ難キヲ認メタルニヨリ帝國政府ニ於テハ本問題ノ解決案ニ關シ考慮ヲ盡シタル結果一九一三年七月三十一日ノ閣議ニ於テ次ノ三案中先ツ第二案ニヨリ米國政府ト交渉ヲ起スコトニ決定セリ。

第一案 不動産ノ取得及處分竝ニ賃借ニ關シ締約國ハ相互ニ其版圖内ニ於テ一方ノ臣民又ハ人民ニ對シ最惠國待遇ヲ與フルノ條約ヲ締結スルコト

第二案 不動産ノ取得及處分竝ニ賃借ニ關シ第一案同様ノ取極ヲ爲スコト但シ右ノ取極ハ兩締約國ニ於ケル現行法ニ對シテハ何等ノ影響ヲ及ホササルヘキコト尤モ現行法中本取極ノ調印以前ニ適法ニ取得セラレタル不動産ノ享有及處分竝ニ賃借ニ關シ現所有者又ハ其相續人若ハ讓受人ニ有害ナル結果ヲ及ホス部分ニ付テハ此限ニアラストナスコト（本案ハ加州土地法問題ニ關シ直接效果ヲ生スルモノニ非スト雖モ將來加州ニ於テ排日立法ヲ爲ス能ハサラシムルハ勿論他ノ州ニ於テ加州ノ例ニ倣ヒ排日法律ヲ制定スルヲ防止シ得ヘキコト竝ニ加州ニ於ケル本邦人ノ既得權ヲ完フシ得ルノ利益アリ）

第三案 外交文書ノ交換ヲ以テ全然懸離レタル問題ニヨリ他ノ方面ニ於テ本邦人發展ノ目的ヲ達セントスルモノナリ即チ

(イ) 一八九九年（明治三十二年）英露間ニ交換セラレタル楊子江流域及長城以北即チ英露各自ノ勢力範圍ニ於テ互ニ鐵道敷設ニ關スル特權ヲ要求セサルヘキ旨ヲ約シタル公文書竝ニ一九〇七年（明治四十年）第一日露協約同四十二年第二日露協約附屬密約ノ趣旨ヲ斟酌シ加州問題ニ關

シ米國政府ヲシテ日本ノ他方面ニ於テ發展スルノ止ムヲ得サル立場ヲ諒トシ滿洲ニ於ケル日本ノ特殊利益ヲ承認セシメ同方面ニ於テ自國ノ爲又ハ自國人民若クハ其他ノ爲鐵道鑛山其他各種ノ工業ニ關スル權利ノ讓與ヲ求メス又同地域ニ於テ日本政府ノ扶持スル該權利讓與ノ請求ヲ直接間接共ニ妨礙セサルコトヲ約セシムルコト但シ日本カ同方面ニ於テ依然トシテ商業上ノ門戸開放機會均等主義ヲ恪守スヘキハ勿論ナリトス

(ロ) 比律賓群島ニ於テハ同島ノ法制上現今土地ノ所有權ハ一般外國人ニ開放セラレ居リ本邦人ノ居住スル者約三千人アリ多クハ勞働者ナルモ中ニハ幼稚ナカラモ漁業及煙草麻米等ノ農業ニ著手シ居ル向ナキニ非ス本邦人ノ發展地トシテ將來有望ノ場所ト認メラルルニヨリ米國政府ヲシテ今回ノ我立場ヲ諒トシ本邦人ニ對シ日米通商航海條約ニ規定セサル農業產業製造業等ノ職業其他總テ私權ノ享有ニ關シ同島ニ於テ一切内國人若クハ最惠國民ト同等ノ待遇ヲ與フルコト竝ニ歸化權ノ有無ヲ以テ私權許否ノ標準ト爲ササルコトヲ誓ハシムルコト

斯一九一三年八月初旬牧野外務大臣ハ珍田大使ニ訓令シ右第二案ノ趣旨ノ協約締結ニ關シ國務長官ト會談セシムルコトトセリ

二、八月七日珍田大使ト國務長官「ブライアン」ノ會見

八月七日珍田大使ハ國務長官ニ面謁シ不動産ニ關スル保證ヲ爲ササル現行條約文ノ不備カ加州立法ヲ促シタル理由ノ一タルヘキニ鑑ミ新ナル協約ヲ以テ斯ル缺陷ヲ補フノ割切ナルコトヲ述ヘ同大使ノ私見トシテ次ノ趣旨ヲ内容トスル協約ヲ締結センコトヲ提案セリ（附屬書第四十六號）

（一）不動産ニ關スル權利ノ取得享有處分移轉及相續ニ關シ締約國ノ一方ノ國民ハ他方ノ版圖内ニ於テ最惠國民待遇ヲ與ヘラルコト

（二）會社若クハ組合ニシテ其社員又ハ株主ノ全部若クハ一部カ締約國ノ一方ノ國民ヨリ構成セラルモノニ對シテモ右ニ關シ社員又ハ株主ノ全部若クハ一部カ最惠國民ヨリ構成セラルル會社及組合ト均等ノ待遇ヲ與ヘラルコト

（三）本協約ハ土地所有ニ關シ締約國ニ於テ現ニ施行セラルル法律ニ影響ヲ及ホスコトナキコト但シ該法律カ本協約調印前適法ニ取得セラレタル不動産ニ關スル權利ノ現實取得者又ハ其相續人又ハ讓受人ノ利益ヲ侵害スル場合ハ此限ニアラス

（四）前三項ハ外國人ノ土地所有ニ關シ締約國ニ於テ現ニ施行セラルル法律ニ影響ヲ及ホスコトナキコト但シ締約國ノ一方ノ國民又ハ會社若クハ組合カ他方ノ版圖内ニ於テ本協約效力發生前適法ニ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ取得享有處分移轉又ハ存續ニ關シテハ現ニ該權利ヲ取得スル者又ハ相續人其他讓受人ニ對シテ最惠國民待遇ヲ與フルコト

之ニ對シ同長官ハ該提案カ日本側ノ要求トシテハ穩當ノモノタルコトヲ認ムルニ躊躇セサルモ條約ニヨリ州ノ行動ヲ羈束スルハ民主黨ノ根本政策タル州權尊重ノ原則ト相容レス殊ニ南部十三州選出議員ノ舉テ之ニ反對スヘキハ論ナク今ヤ大統領ニトリテ殆ト死活問題タル關稅法案及幣制法案議會ニ繫屬中ニシテ此際民主黨政府ニ於テ州權尊重ノ原則ト抵觸スヘキ條約ヲ上院ニ提出シ其批准ヲ求ムルニ於テハ攻撃百出シ前記ニ法案ノ前途ヲ危殆ナラシムルニ至ルヘキカ故ニ追テ篤ト大統領ト熟議ヲ遂ケタル上確答ヲ爲スヘシト述ヘタリ

三、八月十二日會見

次テ八月十二日珍田大使ハ國務長官ニ面會シ協約締結ニ關スル同大使ノ私案ヲ政府ノ訓令トシテ正式ニ米國政府ニ提議スル旨ヲ述ヘタルニ國務長官ハ本件ニ付テハ大統領ト協議スル所アリタルカ大統領ハ本件ノ性質極メテ機微ニ屬スルモノアルカ故ニ篤ト攻究スルコトナレリ尤モ目下議

會ニ懸案中ノ二大法案殊ニ幣制法案ハ二三上院議員ノ向背ニヨリテ決セラレントスル形勢ヲ見ルニ至リ此際政府ニ於テ議員ノ意嚮ニ反スル措置ヲ執レルニ於テハ大統領ニトリ死活問題タル右法案ノ運命ニ最重大ナル暗影ヲ投スルコトナルヘキニヨリ暫ク議會ニ於ケル形勢ノ安定スルヲ待チ本案ニ對スル態度ヲ決スルコトトシタシト述ヘタリ

四、八月十九日ノ會見

其後八月二十一日ニ至リ國務長官ト會見ノ際珍田大使ハ八月十九日牧野外務大臣カ在本邦米國大使「ガスリー」(Guthrie)ト本問題ニ關シ會談シタルコトヲ指摘シ米國大使ニ於テモ本案ニ同意セルカ如シト述ヘタルニ同長官ハ協約案ニ對シテハ慎重考量ヲ加フヘキコト及議會ノ形勢ニ顧ミ本件ノ交渉ヲ進ムルハ未タ機熟セスト思考スト語レルカ同長官ハ成ルヘク話頭ヲ他ニ轉セムトスルノ狀ヲ見セリ

尙八月十九日牧野外務大臣ト在本邦米國大使「ガスリー」トノ會談ノ模様ハ國務長官ヲシテ十分諒解セシムルノ要アリト認メタルニ依リ右會談ニ關スル在米大使宛電報要領(附屬書第四十七號)ハ九月十六日珍田大使ヨリ同長官ニ手交シタリ

五、九月二日ノ會見

其後九月二日ニ至リ珍田大使ハ國務長官ト會見シ米國關稅案ノ成立ノ見込モ確實トナルニ至レル今日日米協約案ニ付交渉ノ步ヲ進ムルノ時機漸ク熟シタルモノト認メラル旨ヲ述ヘ日本ニ於ケル輿論ノ趨勢ニ鑑ミ今後久シキニ互リ懸案ノ解決ヲ遷延スルハ兩國ノ國交上憂慮ニ堪ヘサルモノアルヲ認ムルコトヲ詳說シ協約案ヲ速カニ決定スルノ必要ニ付國務長官ノ注意ヲ喚起シタルニ同長官ハ之ヲ首肯シ目下米國側ニ於テ我協約案ノ對案ヲ作成セムカ爲考究中ナリト語レリ

六、九月十二日ノ會見

然ルニ其後九月十二日珍田大使カ國務長官ト會見ノ際同長官ハ大統領ト合議ノ結果我提案ハ正理ニ合スルモノナルカ故ニ成ルヘク該提案ニ應センコトヲ欲スルモ上院ニ於テ斯ノ如キ協約ヲ以テ州權尊重主義ニ反スルモノトシ批准ヲ肯セサルヘキハ豫測スルニ難カラス從ツテ米國政府トシテハ依然トシテ

(一) 損害補償其他ニ關シ曩ニ提議シタル趣旨ノ實行ニ努力スルノ外ハ

(二) 一般ニ合衆國內ノ各州ニ於ケル日本人ニ對シ偏頗ノ嫌アル法律ノ制定ヲ防止センカ爲及フ限リノ斡旋ヲナスコト竝ニ

(三) 加州議會ニ對シ次ノ會期ニ於テ現行土地法ニ改正ヲ加ヘ日本人所有ノ不動産ハ相續人一代ニ

限り之カ相續ヲ認ムルノ立法ヲ勸奨スル等ノコトヲ約束スルノ外本協約ノ商議ニ應シ難キ旨ヲ語レリ

依テ珍田大使ハ之ニ對シ米國政府ノ前顯ノ如キ斡旋又ハ勸奨ニ關スル好意ハ之ヲ諒トスルモ斯ノ如キハ從來ノ事例ニ徴シ何等具體的效果ヲ齎シ得ヘシト認メ難ク帝國政府カ此際此種言質ノミヲ以テ満足シ難キ立場ニアルハ米國政府ノ夙ニ承悉セラルル處ナルヘシ當方提出ノ協約案ハ州權干涉ノ虞アリト述ヘラルルモ既ニ米國ノ外交史上幾多同様條約ノ締結アリタルノミナラス我提案ハ各州ノ現行法ヲ拘束セントスルモノニ非スシテ唯將來ニ於ケル不動產ニ關スル權利ニ對シ日本人ノ地位ヲ最惠國民待遇ノ基礎ニ置カントスルニアルノミ之行政部ニ於テ既ニ本案ノ正理ニ適合スルコトヲ認メラルル以上ハ議會ノ意向如何ハ姑ク別トシテ兎ニ角之カ商議ニ應セラルルハ行政部當然ノ責務ナリト云ハサルヘカラス若シ不幸ニシテ該協約案カ上院ノ拒否スル所トナルモ行政部ニ於テ一旦調査ヲ了シタル上ハ其好意ハ日本國民ノ十分諒トスル所ナルヘク之ニ反シ該協約案ニシテ行政部ノ同意ヲモ得ル能ハサルニ於テハ兩國國交ノ將來ヲ思ヒ寔ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリトノ趣旨ヲ切言シタルニ國務長官ハ本協約ノ締結カ民主黨多年ノ綱領ト兩立セサル所アルモ兩國ノ親交ヲ維持スル目的ニ顧ミ機宜ニ適スル政策ナルコトハ元ヨリ之ヲ否認スルモノニ非サルモ日

本政府ニ於テ交渉ヲ急カルル故ニ未タ上院議員ノ何人トモ本問題ヲ內議スルコトヲ得ル時機ヲ待ツ暇ナク政府當局ノ意見ヲ回示セル次第ナリ尤モ目下議會繫屬中ノ二大法案ノ運命確定ノ上ハ上院有力議員ヲ招キ本協約案カ國交ノ大局上機宜ニ適シタルモノナルコトヲ指摘シテ説得ヲ試ムルヲ辭セサルモ不幸ニシテ自黨政綱ニ基キ上院議員ノ強硬ナル反對アルニ於テハ之ヲ無視シテ協約ニ調印スルカ如キハ到底政府ノ爲シ能ハサル所ナル旨ヲ述ヘタリ

七、九月十八日珍田大使ト大統領「ウイールソン」ノ會見

九月十八日珍田大使ハ大統領ニ謁見シ八月十九日外務大臣ヨリ在本邦米國大使ニ述ヘタル趣意ト略々同様ノ陳述ヲ試ミ尙特ニ

(一) 上院通過ノ見込アルト否トニ拘ラス一旦協約ニ調印シテ上院ノ議ニ付スルノ考案竝ニ

(二) 先ツ兩國行政部限リ商議ヲ完結シ其結果ヲ上院外交委員ニ提出シ大體其同意ヲ得タル上ニテ正式ニ調印スルノ考案ノ何レカヲ執ラレタキ旨提議シタルニ大統領ハ逐一大使ノ所言ニ傾耳シ充分國務長官ト協議ヲ遂ケ同官ヲ經テ回答スヘキ旨答ヘタリ

八、九月二十二日珍田大使ト國務長官ノ會見

九月二十二日ニ至リ國務長官ハ大使ニ會見ヲ求メ前記第一考案ニ付テハ遺憾ナカラ保障ヲ與フル

能ハサルモ第二考案ニハ同意スルコトニ決定セル旨ヲ告ケ尙外交委員ニ附議ノ時機ニ付テハ目下
繫屬中ノ二大法案落著後タルヘキハ勿論協約案ノ内容ニ付テモ成ルヘク上院ノ同意ヲ容易ナラシ
ムル爲メ必要ノ改訂ヲ加ヘタシトノ趣意ヲ述ヘ以テ米國政府ニ於テ幾分交譲ノ意アルヲ示セルヲ
以テ珍田大使モ之ヲ諒トセリ

九、十月二十一日ノ會見

十月二十一日珍田大使トノ會見ノ際國務長官カ協約案ノ前途ヲ危ムノ意ヲ示シタルヲ以テ同大使
ハ此杞憂ヲ除カンカ爲ニハ六ヶ月ノ豫告ヲ以テ何ニテモ本協約ヲ廢棄スルコトヲ得ル規定ヲ設ク
ルモ可ナルヘク若シ長官ニ於テ本協約ノ上院通過ヲ容易ナラシメムカ爲該規定ヲ設クルヲ有益ト
認メラルトキハ帝國政府ノ考量ヲ求ムヘシ而シテ此讓歩ノ代償トシテ土地問題以外ノ事項ニ付
テモ最惠國待遇規定ヲ加ヘンコトヲ希望スト述ヘ同大使限リノ私案トシテ次ノ趣旨ノ協約案(附
屬書第四十八號)ヲ國務長官ニ手交シタルニ同官ハ之ヲ一讀シ篤ト考究ヲ盡スヘキ旨ヲ答ヘタ
リ

(一) 不動産ニ關スル權利ノ取得享有處分移轉及相續ニ關シ締約國ノ一方ノ國民ハ他方ノ版圖内ニ
於テ最惠國民待遇ヲ與ヘラルコト

(二) 會社及組合ニシテ其社員又ハ株主ノ全部又ハ一部カ締約國ノ一方ノ國民ヨリ構成セラルルモ
ノハ他方ノ版圖内ニ於テ不動産ニ關スル權利享有及處分ニ關シ社員又ハ株主ノ全部又ハ一部カ
最惠國民ヨリ構成セラルル會社及組合ト均等ノ待遇ヲ與ヘラルコト

(三) 前二項ハ外國人ノ土地所有ニ關シ締約國ニ於テ現ニ施行セラルル法律ニ影響ヲ及ホスコトナ
キコト但シ締約國ノ一方ノ國民又ハ會社若ハ組合カ他方ノ版圖内ニ於テ既ニ適法ニ取得シタル
不動産ニ關スル權利ノ取得享有處分移轉又ハ相續ニ關シテハ現ニ該權利ヲ所有シ若ハ取得スル
者又ハ其相續人被遺贈人被配當人ニ對シテ最惠國民待遇ヲ與フルコト

(四) 締約國ノ一方ノ國民ハ他方ノ版圖内ニ於テ產業職業及其他ノ正業ノ遂行ニ關シ最惠國民待遇
ヲ與ヘラルコト

(五) 締約國ノ一方ハ何時ニテモ六ヶ月ノ猶豫ヲ與ヘ本協約廢棄ノ通告ヲ發スルヲ得ヘキコト。
十、十二月四日及同十二日ノ會見

然ルニ十二月四日珍田大使カ國務長官ニ面謁シタルニ同長官ハ本協約案ノ實質ハ大體ニ於テ正理
ニ合致スルコトヲ承認スルモ第三條但書ニ於テ

...; provided that in the matter of the acquisition, possession, enjoyment, disposition, transmission or inheritance of real property or any interest therein, in the territories of one Contracting Party, lawfully acquired and possessed by subjects or citizens of the other party, or by companies, associations or corporations of which the whole or part of the members or stockholders consist of subjects or citizens of such other Party, the treatment of the most favored nation, assured by Article I and II, hereof, shall in all cases be extended and applied to and in favor of the actual owners and holders of such real property or any interest therein, and their heirs, devisees, and assignees, so long as such owners, holders, heirs, devisees and assignees, are or continue to be such subjects or citizens or such companies, associations or corporations as aforesaid.

トアルカ該但書ハ必然上院ノ反對ヲ招クヘキヲ以テ之ヲ削除シ本協約規定ノ範圍ヲ全然將來ニ對スル保障ニ限定セムコトヲ希望スト述ヘタルニ對シ珍田大使ハ右但書ハ加州土地法ニ關スル爭議ノ解決方法トシテ日本政府ニ於テ最上ノ交譲ノ誠意ヲ示シタルモノニシテ該法律ハ既ニ適法ニ取得シタル權利ニ付テモ其效力ヲ制限スルモノナルカ故ニ苛酷ナルハ疑ノ餘地ナク但書ヲ全部削除スルコトハ日本ノ輿論ニ徴シ至難ナルヘシト思考スト答ヘタルモ同長官ハ飽ク迄但書削除ノ必要ヲ固執セリ仍テ珍田大使ハ一個ノ私案トシテ若シ已ムヲ得スハ但書ニ規定スル永久保障ヲ現所有

者及其權利承繼人一代ニ限り保障スルコトト修正スルモ可ナルヘク長官ノ同意アルニ於テハ本國政府ニ請訓スルヲ辭セスト述ヘタルニ國務長官ハ右修正案ハ原案ニ比スレハ一ノ進歩ナリトシ本國政府ニ請訓センコトヲ求メタリ然ルニ右但書ハ八月七日珍田大使ヨリ協約案ヲ提出シタル當初ヨリ國務長官ノ異議ヲ唱ヘタル所ニシテ日本政府ニ於テハ讓歩スルノ外ナカルヘキコトヲ認メタルカ十二月十二日ノ會見ニ於テ米國行政部カ本問題以外ニ修正意見ヲ有セサルコトヲ確メタル上珍田大使ハ政府ノ回訓ニ基キ第三條末段 and their heirs, devisees and assignees トアルヲ their immediate heirs, devisees and assignees ト改メ so long 以下ヲ削除スルコトトシ茲ニ彼我ノ間一應協約案ノ一致ヲ見ルニ至リタリ

十一、協約案第三條但書ノ削除

其後珍田大使ハ十二月十八日翌一九一四年一月一日等機會ノアル毎ニ國務長官ニ對シ協約案ノ成立ヲ進捗セシメムコトヲ督促スルニ努メタルカ一月十四日同長官ノ招請ニ應シ面會シタルニ同官ハ同日大統領ト協約案ニ就キ協議シタルニ大統領ハ同協約案第三條但書ヲ是非共削除セサルヘカラストノ意見ヲ有スル旨ヲ述ヘタルヲ以テ在米大使ハ十二月十二日ノ會見ノ際帝國政府ニ於テ極度ノ讓歩ヲ爲シタル結果國務長官ニ於テ既ニ同意ヲ表シタル事實ヲ指摘シ大統領ノ反對意見ヲ聞

クハ最モ意外トスル所ナリトテ同長官ノ再考ヲ求メタルモ大統領ニ於テハ既ニ加州法成立前ナラハ知ラス既ニ同法ノ成立シタル後ニ於テ新ニ條約ヲ締結シテ既定州法ニ變更ヲ加フルハ州權尊重ノ根本觀念ニ背反スルヲ以テ假令上院ヲ通過スルモ大統領ニ於テ主義上承認スルコト能ハストノ斷乎タル意見ヲ有シ尤モ右但書ヲ削除シタル協約案ハ大統領ニ於テ其締結ヲ希望スル旨ヲ表明セリト述ヘタリ帝國政府ニ於テハ飽クマテ同但書ノ保留ヲ得ント欲シタルモ同大統領ノ態度意外ニ強硬ナリシヲ以テ協約案ノ目的ノ一タル加州法效力制限保障ノ問題ヲ放棄シ將來ニ於ケル排日防止ノ問題ノ一點ニ止ムルノ已ムナキヲ認メ第三條但書全部ノ削除ニ同意スルコトニ決定シ尤モ

(一) 土地法ニ對スル我訴訟權ヲ保留スル爲第三條ヲ次ノ通修正スルコト

It is well understood, however, that nothing contained in the two preceding Articles shall be held or construed as affecting or superseding the laws now in force in either country on the subject of alien land tenure; provided that nothing in this or the preceding Articles shall have the effect of cancelling or abridging any right or privilege which the subjects or citizens of one Contracting Party would have had in the territories of the other, if this Convention had not been concluded.

(二) 曩ニ米國政府ヨリ提議スル所アリタル裁判上ノ便宜供與及損害賠償

ノ二點(土地買上ノ件ハ問題トナスノ必要ナカルヘシ)ニ關シ協約トハ全然別ニ兩國政府間ノ了解トシテ公文ノ交換ヲ爲スコトヲ提議セシムルコトトセリ仍テ一月二十三日在米大使ハ國務長官ニ面謁シ右日本政府ノ決意ヲ通告シタルニ同官ハ帝國政府ノ好意ニ對スル満足ノ意ヲ表シ第三條ノ文句ノ書方ニ就テハ「モアー」(Moore)參事官トモ協議ノ上回答スヘキ旨ヲ約シ又裁判上ノ便宜供與賠償等ニ就テハ協議ノ上相互ニ公文ヲ交換スヘキコトトセリ其後二月二日珍田大使國務長官ヲ往訪ノ節同長官ハ第三條ノ辭句ニ關シテハ同參事官ト相談ノ結果日本側提案ニ同意スルコトトセル旨答ヘ協約案ヲ上院外交委員ニ内示スヘキ時期ニ付テハ當時多數ノ仲裁裁判條約更新ニ關シ同委員ト協議中ナルヲ以テ大統領ハ同條約ニ關スル協議完了ノ上協約問題ノ内議ニ及ヒタシトノ意見ヲ有スト述ヘタリ協約商議ノ進行ヲ永引カシムルハ大局上甚タ好マシカラスト雖モ一方上院外交委員ニ内談スヘキ時機ヲ選フノ大切ナルハ勿論ナリシヲ以テ米國政府ノ裁量ニ信賴スルト共ニ機會ノアル毎ニ珍田大使ヨリ同長官ノ注意ヲ喚起スル所アリタルカ其後二月末ニ至リ上院委員會ハ「ヴィラ」(Villa)カ英人「ベントン」(Benton)ヲ殺害シタル事件ニ關聯シ墨國問題ニ忙殺セラレ次テ四月末ニ至リ運河通過料免除廢止案問題ノ爲多忙トナリ米國政府ハ協約案ヲ附議スルノ機ヲ得スシテ空シク時日ヲ經過セリ

第二、日米協約ノ商議打切

一、大隈内閣ノ新方針

日米協約問題ノ遅々トシテ進捗セサル間ニ日本ニ於テハ一九一四年四月内閣ノ交迭アリ大隈新内閣ニ於テハ對米問題殊ニ協約問題ニ對スル對策ニ關シ慎重審議シタル結果次ノ方針ヲ確立セリ

(一) 米國政府ノ態度ニ照スニ動モスレハ言ヲ左右ニ託シ遷延之ヲ事トシ殆ト協約ヲ成立セシメントスル誠意ナキカ如ク加フルニ上院外交委員ニ於テ果シテ協約案ヲ支持スルヤ否ヤ疑ハシキノミナラス協約案ハ差別待遇ニ對スル日本政府從來ノ主張ヲ根本的ニ放棄スルコトトナリ特ニ第三條但書削除以來加州問題ノ解決ニハ直接關係ヲ有セサルモノトナリ土地法ノ爲ニ蒙リタル我國民の侮辱ヲ雪キ國民ノ輿望ニ副ハムトスル解決策トシテハ妥當ニアラス

(二) 尤モ差當リ他ニ本件解決策ナシト雖モ飽クマテ我主張ノ貫徹ヲ見スンハ止マサルノ態度ヲ持續シ日本政府當初ヨリノ論議ヲ反覆強調スル裡ニハ自然局面ノ展開モアルヘク或ハ又本件ヲ海牙仲裁裁判ニ附スルノ議モ起ルヘキ等何カ更ニ有利ナル解決策ヲ發見シ得ル時機ノ到來スルコトナキニアラサルヘシ

(三) 若シ又不幸ニシテ到底斯クノ如キ好機到達シ得スト假定スルモ加州問題ニ直接關係ナキ協約

ノ締結ヲ試ムルヨリハ寧ロ當初ノ交渉ニ復歸シ我主張ヲ維持シ談判ヲ繼續スルヲ合理的ニシテ有利ナリトス

仍テ加藤外務大臣ハ同年六月九日在米珍田大使ニ訓電シ日本政府ニ於テハ本件協約案ハ當面ノ問題ヲ是正セスシテ寧ロ新ナル困難ヲ誘起スルノ虞アルヘク從ツテ政府ハ此協約締結ヲ目的トスル商議ヲ繼續スルノ意ヲ有セス寧ロ該商議ノ爲中斷セラレタル彼我ノ往復ヲ復歸スル旨竝ニ本問題攻究ノ再開ニヨリ幸ニ其根本的解決策ノ發見セラルヘキヲ信望スル旨米國政府ニ申入レシムルコトトセリ(附屬書第四十九號)

二、商議打切

六月十日珍田大使ハ國務長官ニ面謁シ右訓電寫ヲ手交シタルニ同長官ハ一讀ノ上右ノ中ニ「新ナル困難」(new difficulties)トアルハ若シ上院カ協約案ヲ採擇セス又ハ否決スルトキハ地方的ナル加州事件ハ轉シテ中央ノ問題トナリ日本人一般ヲシテ加州ノミナラス米國議會ニ於テモ日本ニ惡意ヲ有ストノ感觸ヲ起サシムルコトヲ指スモノナラント述ヘタルカ之ニ對シ珍田大使ハ同大使ノ見ル所ニヨレハ其意味ハ寧ロ右協約ハ第三條但書ヲ削除シタル爲加州土地法問題トハ沒交渉トナリ同問題解決方法トシテハ不十分ナリト看做サルルコト及歸化ノ意思ヲ表示シタル外國人ニ關ス

ル規定不明瞭ナリト看做サルコトノ二點ナリト想像セラルト説明セリ國務長官ハ實ハ運河通過料免除廢止案モ今週中ニハ決定スヘキニ付來週ニ入り上院外交委員ト本協約案ニ關シ協議ヲ開始スル心算ナリシモ帝國政府ノ意見ニシテ斯クノ如クナルニ於テハ最早詮方ナシト述ヘタリ其後米國政府ハ六月二十三日珍田大使ヨリ國務長官ニ手交シタル右訓令寫ニ對シ回答公文（附屬書第五十號）ヲ送付越シ米國政府ニ於テ協約締結ニ關スル交渉ヲ打切ラントノ帝國政府ノ希望ニ應スヘキコトヲ述ヘ本問題當初ノ交渉ニ復歸センカ爲一九一三年七月十六日附公文及追加覺書ニ對シ帝國政府ヨリ回答アラシコトヲ期待スル旨通告シ來レリ

三、帝國政府ノ第四回抗議書

一九一三年八月二十六日珍田大使ヨリ國務長官ニ對シ第三回抗議書ヲ提出シタル以來帝國政府ニ於テハ加州問題ノ善後策竝ニ將來ニ於ケル在米日本人ノ一般利益ノ保護ニ關スル研究ヲ怠ラサリシカ一方前記一九一四年六月二十三日附國務長官回答ニ對シテハ更ニ反駁スルノ必要アリト認メタルヲ以テ十月二十六日在米珍田大使ニ訓令シ第四回抗議文（附屬書第五十一號）ヲ米國政府ニ提出セシムルコトトセリ其要旨ハ加州法ハ米國ノ國家的差別政策ヲ表示スルモノニ非サルヘキモ人種的憎惡心ノ表現タル地方的差別待遇政策ニ基ケルモノト認ムルコトヲ高唱シ從ツテ同法ハ

現行日米條約ノ條章及精神ニ背反スルト共ニ兩國親交ノ精神ト兩立セサルモノナルコトヲ縷述シ帝國政府ハ米國政府ノ提唱セル損害補償竝ニ訴訟ニ對スル便宜ノ供與ヲ以テ問題ニ應スルノ劃切ノ方法ナリト思惟セス外交手段ニヨリテ其滿足ナル解決ヲ求メムトスルモノナルコトヲ力說セルモノナリ珍田大使ハ十一月二十五日國務長官ニ面會ノ上加州問題ノ未決ノ儘ナルハ兩國國交ノ大局上憂慮ニ堪ヘサルヲ以テ成ルヘク速ニ本問題ノ滿足ナル解決ニ到達セムカ爲國務長官ニ於テ此上トモ十分盡力アリ度シト述ヘ本抗議文ヲ手交シタリ

右抗議文手交ノ際國務長官ハ米國政府ニ於テ日本政府ト全然同一ノ精神ヲ以テ本問題ノ解決ヲ求メントスルノ念慮ヲ有スルハ終始渝ルコトナシト雖モ如何ナル方法ニヨリテ此目的ヲ貫徹スヘキカハ極メテ困難ナル問題ナリ而シテ加州土地法其モノノ撤廢ハ最モ簡單ナル方法タルヤ勿論ナリト雖モ此事タル到底今日ニ於テハ望ミ難ク現ニ最近加州選舉ノ結果米國議會上院議員ノ選舉ハ民主黨ノ勝利ニ歸シタルニ拘ラス州知事ノ選舉ニ至リテハ全ク反對ノ狀勢ヲ示シ大多數ヲ以テ「ジョシソン」ノ再選ヲ見土地法ハ更ニ加州側勝利ノ裏書ヲ受ケタル姿トナレル事實ニ顧ルモ同法ノ改廢ヲ見ント欲スルハ暫ク之ヲ斷念セサルヘカラス又中央政府ニ於テ之カ改廢ヲ爲サントスルカ如キハ憲法ノ許ササル所ニシテ全然不可能ノコトニ屬ス帝國政府ニ於テモ這般ノ消息ヲ知悉シ居

ラルヘキヲ以テ米國ニ向ツテ絶對ニ不可能ナル解決法ヲ要望セラレストセハ如何ナル方法ニ依テ本問題ノ解決ヲ求メントスル希望ナリヤト質問スル所アリ之ニ對シ珍田大使ハ帝國政府ハ屢次ノ抗議書中ニ詳述シタル如ク加州土地法ハ現行日米條約ノ條章及精神ニ違反スルモノト認ムルカ故ニ米國政府ニ對シ之カ解決ヲ要望スト雖モ解決ノ方法如何ヲ講究スルハ米國政府ノ責任ニ屬スル問題ナリト信スト述ヘタルニ條約ト既定州法トノ效力關係ハ憲法上ノ一大疑問タルヲ免レストテ我主張ニ全然承服スル所ナカリシナリ其後日本政府ハ右公文ニ對シ更ニ米國政府ヨリ回答ヲ受クルモ何等本問題ノ解決ニ資スルノ見込ナキコトヲ了得セルヲ以テ強テ米國ノ回答ヲ督促セス本件ハ米國民ノ公正ナル判斷ト自省トニヨリ自然ニ解決セラルルノ日ヲ待ツノ方針ヲ採レリ

第三、第二次日米協約ノ提案

一、第二次日米協約問題

嚮ニ日本政府ニ於テ協約案ヲ撤回シタル主要ナル理由ハ前顯ノ如ク同協約ノ爲加州問題ニ對スル帝國政府ノ根本主張ヲ拋棄スルコト能ハサルノ點ニ歸着ス然ルニ在米珍田大使ハ一九一四年十月當面ノ問題タル加州土地法トハ全然沒交渉ニシテ專ラ將來ニ於ケル排日行動ヲ豫防スルノ趣旨ニ出テタル協約ニシテ幸ニ締結セラルルニ於テハ將來ニ於ケル排日運動再燃ノ爲惹起セラヘキ時局

ノ紛糾ヲ避ケ徐ニ加州問題ノ解決ヲ講シ得ハ日本ニ取リ利益ナルコト言フ俟タサルヲ以テ當時問題トナレル國務長官「ブライアン」ノ提案シタル一般平和條約（次章掲出）ヲ日本政府ニ於テ締結スルノ方針ナルニ於テハ交換問題トシテ右協約ノ締結ヲ提議スルコト適切ナル趣ヲ以テ政府ニ稟申スル所アリ政府ニ於テモ右ノ如ク全然新ナル立場ニヨル協約ハ我ニ執リ利益タルコト勿論ナルヲ以テ一般平和條約ノ締結問題ト離レ右新協約案ヲ米國政府ニ提案セシムルコトトセリ仍テ珍田大使ハ翌一九一五年一月八日國務長官ト會見ヲ遂ケ同大使一個ノ私案トシテ加州土地問題トハ關係ナク單ニ將來ニ於ケル兩國民ノ不動產ニ關スル權利及一切ノ職業權ニ關シ完全ナル相互的最惠國待遇ヲ定ムヘキ協約ノ締結ヲ提議シ同月十五日ノ會見ニ於テ同大使ノ作成セル次ノ趣旨ノ一案（附屬書第五十二號）ヲ手交セリ

（一）不動產ニ關スル權利ノ取得享有處分移轉及相續ニ關シ締約國ノ一方ノ國民ハ他方ノ版圖内ニ於テ最惠國民待遇ヲ與ヘラルルコト

（二）會社及組合ニシテ其社員又ハ株主ノ全部又ハ一部カ締約國ノ一方ノ國民ヨリ構成セラルルモノハ他方ノ版圖内ニ於テ不動產ニ關スル權利ノ取得享有及處分ニ關シ社員又ハ株主ノ全部又ハ一部カ最惠國民ヨリ構成セラルル會社及組合ト均等ノ待遇ヲ與ヘラルルコト

(三) 前二項ハ外國人ノ土地所有ニ關シ締約國ニ於テ現ニ施行セラルル法律ニ影響ヲ及ホスコトナキコト但シ本項及前二項ノ規定ハ本協約カ成立セサリシ場合ニ於テ締約國ノ一方ノ國民カ他方ノ版圖内ニ於テ有スヘカリシ權利又ハ特典ヲ奪フモノニアラス又締約國間ノ交渉案件タル一九一三年加州外人土地問題ノ解決ハ本協約ト全然關係ナク獨立ニ覓メラルヘキコト

(四) 締約國ノ一方ノ國民ハ他方ノ版圖内ニ於テ產業職業及其他ノ正業ノ遂行ニ關シ最惠國民待遇ヲ與ヘラルルコト

(五) 締約國ノ一方ハ何時ニテモ六ヶ月ノ猶豫ヲ與ヘ本協約廢棄ノ通告ヲ發スルヲ得ヘキコト
二、「ブライアン」ノ辭職ト交渉ノ頓挫

右兩度ノ會見ニ於テ國務長官ハ

(一) 當時上院ニ於テ諸種ノ法案堆積シ議會會期中(三月四日迄)ニ新條約ノ問題ヲ附議スルコトハ實際上殆ト不可能ナルノミナラス

(二) 次期上院ニ於テハ民主黨員多少ノ増加ヲ見ルノ利アリ旁本協約問題ハ次期議會ニ附議スルノ外ナカルヘシトノ意見ヲ述ヘタルニヨリ帝國政府ニ於テハ姑ク米國政情ヲ觀望スルノ外ナカリシカ其後幾何ナラスシテ國務長官「ブライアン」職ヲ退キタル爲新協約締結ニ關スル交渉ハ何

等發展ヲ見ルニ至ラスシテ止ミタリ

尙右會見ノ際國務長官ハ珍田大使ノ協約案ハ加州問題ノ解決ニ關係ナシトノ理由ニヨリ上院ニ於テ協贊ヲ否ム虞アルヲ以テ加州問題ハ裁判ニ訴ヘテ之ヲ解決スヘシトノ一條ヲ加フル必要アルコトヲ説キタリ之ニ對シ珍田大使ハ裁判ニヨル解決ハ我政府ノ初ヨリ容レサル所ナル事實ヲ指摘シ差當リノ考案トシテハ該問題ハ仲裁裁判ニ附スルカ又ハ協商ト同時ニ締結セラルヘキ一般平和條約ニ豫期セル審査ニ附スヘシトノ趣旨ニテハ如何ト試問シタルニ國務長官ハ前者ニ對シテハ加州問題ハ主權ニ關スル問題ナルヲ以テ仲裁裁判權ニ附スルハ斷然不可能ナリト明言シ後者ニ對シテハ明確ニ反對ノ意思ヲ表示セサルモ満足セサリシカ如シ

帝國政府ニ於テ米國政府ノ主張セル如ク加州土地法問題ヲ法廷ニ訴フルコトヲ承認セサリシハ米國著名法律家ノ意見カ大體ニ於テ我ニ不利ナリシニ基クモノトス